

社会福祉法人佐渡福祉会 平成30年度事業報告書

1 平成30年度事業概要

社会福祉法人佐渡福祉会定款の目的にもとづき、障害者支援施設(岩の平園、第二岩の平園)、障害福祉サービス事業(あんずの家、まつはらの家、そよかぜ、グループホーム)、相談支援事業(こもれび)、障害者就業・生活支援センター事業(あてび)の円滑な経営に努めた。

(1) 各施設の利用率向上

そよかぜでは、生活介護、共同生活援助(グループホーム)ともに利用率が向上し、収入は大幅に増額した。あんずの家とまつはらの家での利用率はほぼ同じであった。岩の平園と第二岩の平園では、施設入所支援事業と生活介護事業の利用率はやや低くなったが、短期入所事業の利用率は新規利用者の受入増加によって向上した。

(2) 施設整備

岩の平園では、車椅子に乗った状態で入浴できるようにするため、以前から計画していた浴室改修と入浴用リフト設置を行った。第二岩の平園では、長年使用していた公用車を車椅子対応の福祉車両に買い替えた。いずれも民間の助成金を活用した。

他の施設においても、補助金・助成金を積極的に活用できるよう申請している。

(3) 新規事業

まつはらの家では、パンの製造・販売の新規事業の準備を進める。寄付された土地で新規作業所を開設するため、施設整備補助金の協議書を提出している。

(4) 職員教育

階層別研修は、階層ごとに外部講師や管理職による講師にて実施することができた。全体研修は外部講師を招いて行った。また、キャリアパスに関する要件(基準表)の全面改正や新採用職員育成計画を作成した。

(5) 労働環境の整備

職員の人材確保と定着を図るため、法人全体で業務内容見直しによる時間外労働の削減及び年次有給休暇取得率向上に取り組んだ。働き方改革に対応するため、改善の実施は今後も継続して取り組む。ユースエール認定企業の認定継続も引き続き目指す。

(6) 第二次中期計画

平成30年度の検証を行い、理事会及び評議員会に報告した。その内容を平成31年度事業計画に反映している。

(7) 課題

平成30年度報酬改定によって、あんずの家・まつはらの家では、利用者工賃の増減や一般就労の定着率が次年度の報酬単価に反映され、収入に大きく影響を与えるようになる。工賃アップや定着率改善は引き続き重点課題である。

岩の平園と第二岩の平園での高齢化・重度化に対応するため、入所施設検討委員会を設置して今後の在り方について検討を開始する。グループホームでも利用者の高齢化によって、介護、看護の比重がますます大きくなっている。

短期入所の利用依頼とともに、他法人の施設や各種サービス等を利用している人も増えており、他法人や関係機関の関係者等との連携・調整もさらに重要になっている。